



Approach to Gain an International Perspective
Study Talk Session
今、見直したい
留学の
価値
対談
企画



グローバル化が進展し、企業活動においてもその傾向が表面化している。その一方で、日本人学生の留学離れが進むなど、日本の若者が内向きになっているとの懸念がある。追大の国際教育アドバイザーを務める金田先生と、追大OBでカンボジア地雷撤去キャンペーン(CMC)の古川事務局長らと交えて、グローバル化の波のなか、日本の大学生がどのように世界とかわかっていくべきかを探った。

ぜひ学生のうちに 外国を体験しておくべき

司会(難波亮祐) 今回は異文化交流、とりわけ大学生にとって留学することの価値について、お話ししたいと思っています。まず現状として、留学生数は減少傾向にあります。

金田 減っていることは残念ですね。他大学の学生と接していても、「留学することの意義がわからない」という声を聞きま

古川 大学生なら留学は絶対にしてあげてくださいね。外国に行ったことのない人は、来週からでも行ってほしいくらいです。

司会 戸田さんは最近、初の海外を体験されましたね。

▼カンボジアでの地雷被害者に対する雇用創出などの支援のために奔走する古川純平さん



きました。意外だったのは移民が多くて、いろんな文化があることでした。

古川 そういうことを知ったのも収穫ですよ。現地でしか感じられないことだから。

司会 マナリさんは、なぜ日本に？

マナリ 学問のためです。私はプロダクトマネジメントを専攻していて、そのベースは日本にあるんです。学んだことが実際に日本でどのように行われているのを見にきました。

司会 カルチャーショックはなかったですか。

マナリ とくにはありません。それよりもインドと日本にはかなり似た部分があると感じます。

古川 忍者がいなくてショックじゃなかった(笑)？

マナリ ニンジャ？

意識を変えて、世界に目を向けなければ、日本の大学生は、このままだと世界から取り残される？

留学してから勉強する という間違った意識

古川 カンボジアでは、日本にはもう忍者もサムライもないといううと、がっかりする子が結構いるんです。

マナリ いけばなや折り紙などの日本の文化には興味がありますけど、ニンジャのことは知りませんでした。インドと日本の共通点は、他者を尊重する気持ちを大切にすること。もちろん違いはたくさんあるけど、それは覚悟のうえだし、違いを体験することも勉強のつもりでできています。

金田 留学では、しっかりとした目標を持つことはとても重要です。日本の学生のなかには「留学したら英語ができるようになりますか」と軽く考えている人がいます。動機が浅いんです。だから挫折する。遊びの面でも、留学先には日本では経験出来ないことがあるから、動機が浅いと誘惑に負けやすい。

司会 金田先生は留学アドバイザーをなさっているわけですが、留学に際して学生が意識して守るべきことはそのあたりですか。

金田 そうですね。しっかりとした目標を

持てば自然と勉強するようになるはずですよ。この先生は日本人には厳しいとかいろんなエクスキューズをつけて、結局成果をあげられなかった子がいかに多いか。問題なのは、留学したら勉強を始めようという意識だと思えます。今まで全くと言っていい程していないのに、「明日から毎日5時間」なんて到底無理ですから。留学前から勉強する習慣を身につけて欲しいですね。

戸田 私がオーストラリアに行ったときは、幸いにも誘惑が全然ありませんでした。テレビもない部屋で、勉強するしかない環境でした。問題は日本に帰ってからそれが続かないことです(笑)。

金田 日本の学生は他の国と比べて本当に勉強量が少ない。宿題が勉強と思っているところもある。様々な問題もあって、決して学生だけの責任ではないのですが、何事にも受け身なんです。「ビッグになってやる」という意気込みを感じる学生も少ないです。

古川 それはすこく感じます。カンボジアの子供たちは、ほしいものがあふれているから頑張ろうと必死です。日本人は大概のものがすでに手に入っていますから。

金田 何でもそろっている。それ自体悪いことではないのですが、よい方向に作用していません。日本人はルールを守るし、民度は高い国民ですから、前を向けば、まだまだ世界1、2を争う国になります。違うベクトルで背中を押してあげる必要があるでしょうね。

留学では必ずやり遂げる任務を
持たせるべきだと思う
古川 純平



▲金田氏、古川氏の海外体験談に接し、おおいに刺激を受けた広報スタッフ



英語の習得は国内でも可能 留学の目的を問う必要がある

司会 インドは今、元気な国の一つですね。
マナリ 第一に人口が増えていることが大きいですね。経済面では、人口が増えて国内で生産と消費がまわされる環境がありますので、世界経済の中心であるアメリカ、ユーロ圏に依存しない発展が可能です。
古川 今後はアジアのいろんな国が経済成長してくるでしょう。たとえばカンボジアではすでに中国、韓国の進出が盛んで、日本企業は出遅れています。日本人の気質なのかも知れませんが、遅いんですね。もっと外国と積極的にいかかわっていく意欲。そ

日本人は本質的なチームワークが苦手 その場に飛び込んで学ぶしかない

— 金田 正英

準語を身につけて帰ってきたんですよ。
一同 (笑)

時給850円と
日給8500円の競争

司会 今、企業活動がグローバル化しています。就職を控えた僕たち学生にとって、無関心ではいけないことです。金田先生は以前、あるグローバル企業の事例として、

れを育むためにも、学生のうちに外国へ行って学ぶべきです。英語を話せるようになる、といった次元の話ではなく。

金田 そつですね。留学を控えた学生でも「どのくらいの単語を覚える」と話せるようになりませんか、「TOEIC®何点とれるようになれますか」という質問をよく受けます。でもそれなら国内でもできるわけです。英語は言葉ですから、勉強すればできるようになる。留学することの本来的な意味から問う必要があるでしょうね。

戸田 オーストラリアでは外国の学生と一緒に学んだのですが、みんなものすごく積極的に発言します。今までは日本の勉強の仕方が普通だと思っていたし、実際に英語を母国語としない国の学生に比べて、私たちのほうが本は確実に読めるんです。でも向こうはすこく喋る。私たちは点数は取れてもコミュニケーションがとれない。もう負けまくったという感じで……勉強法を見直すきっかけになりました。

マナリ 日本人は授業態度もきちんとしているし、聞き手としてはいいのですが、尋ねられないと自分の意見をいわないですね。でも、追大生はやさしい。日本語ではうまく伝わらない私に対して、ボディランゲージを駆使したり、書いたりして、あきらめずに理解させようとしてくれます。

古川 ボディランゲージで何とかなった、という話はよく聞きますよね。日常生活レベルならそれでいいのですが、仕事となると

世界同一賃金、つまり国籍が賃金に影響しなくなると、日本人であることが価値ではなくなっている、という話を取り上げておられました。

金田 日本では大学を出て普通に就職すれば一般職で20万円くらいの給料がもらえます。何もしていないのに、会社に入ったというだけで20万円もお金が出る。世界的にみたらあり得ないですね。企業からすれば、もっともお金のかかるのが人件費だから、安く雇えるほうに人材を求

Study Abroad to Gain an International Perspective

今、見直したい 留学の価値

本質的な意見交換が必要ですから、きちんと話せないといけないです。外国人ばかりの環境で喋る訓練を積むのが一番です。

司会 古川さんはカンボジアに1年間駐在されていました。カンボジア語の習得はどのようにされましたか。

古川 現地の人、とくに子供と接して勉強しました。午前中に単語を覚えて、午後から子供たちを相手に話してみる。子供たちは笑いながら間違いを教えてくださいました。彼らは素直に間違いを指摘するので、とても勉強になりました。

金田 よくコミュニケーション能力の向上が指摘されます。でも日本語って、「コミュニケーション」がそもそも必要ない言語ではないでしょうか。「これはアレやで」で通用するでしょう(笑)。多くの人はコミュニケーション力の重要性を説くのですが、僕はそれよりも議論する力が大切だと考えています。日本人は議論というものをしなかった。

戸田 外国の学生はだれに対しても驚くほど意見をいいます。日本人の学生は教室内で座るときでも同じエリアに固まっていた。また。

古川 日本人同士って、固まるんですね。よくないけど。高校時代の話ですが、友人がバンクーバーに留学するというので、「すごいな。英語できるようになって帰ってくるねんなあ!」と感心していた。でも実際には、現地で東京の人と友達になって、標

日本人は聞き手としてはいいが、 自分から意見を述べないと感じる

— Manali Paraskumar Dalal

司会 なるほど。今の時代こそ外国を自分の目でみることの必要性が伝わってきます。先ほど留学の動機の大切さについての発言がありました。留学を通じて自分に身につけておく力は何かと思われませんか。

日本のなかでは 学べないことがある

金田 日本人は、グループワークはできて、チームワークができないんです。でも今、チームワークで戦っていく世の中になっ

VOICE | 初の海外体験でいろんな発見がありました



社会学部 社会学科 2年生
学生企画広報スタッフ
Mizuki Toda
戸田 瑞姫 さん

本年度から学生企画広報スタッフとして活躍している。1年次に3週間の海外ボランティア体験プログラム(オーストラリア)に参加。語学研修やボランティア活動に従事し、見聞を広げた。本対談への参加で、日本の歴史や文化への認識を強めることの重要性を感じ、再び海外へ留学したいという気持ちが強まっている。

VOICE | 追大生はとても親切に接してくれますね



Gujarat University
(インド・グジャラート大学)に学
management専攻
**Manali Paraskumar
Dalal** (マナリ)さん

インド・グジャラート大学から追手門学院大学に5月中旬より2ヵ月半、交換留学。専攻は経営学。母国で、日本の産業に基づいた授業を受けたことから、実際に日本の産業・経済を見てみたいと思い、日本への交換留学を決意した。伝統工芸にも強い関心があり、美術部で茶碗をつくるなど、日本文化にも積極的に触れる。

VOICE | ぜひとも大学時代に海外を体験してほしい



一般財団法人
カンボジア地雷撤去キャンペーン
事務局長
Junpei Furukawa
古川 純平 さん

2001年追手門学院大学文学部イギリス・アメリカ語学文学科(現・国際教養学部英語コミュニケーション学科)卒業。NGO法人カンボジア地雷撤去キャンペーン(CMC)事務局長。同法人のカンボジア初代駐在員を経て、現在は国内で学校や企業・団体での講演会を通じて、地雷問題の周知を図る。

VOICE | 世界が動いている、今こそ外に出よう!



国際交流教育センター
国際教育アドバイザー
追手門学院大手前中・高等学校
国際教育アドバイザー
Masahide Kaneda
金田 正英 先生

追手門学院大学国際教育アドバイザーらびに追手門学院大手前中・高等学校特別講師を務める。追手門学院大手前中・高等学校を経て、アメリカ・ユタ州立大学卒業。アメリカ・私立ブリガムヤング大学・私立ブルックス美術大学にて修士、International-Universal Placement Program会員、USA Community College Consortium会員。



私たちは英語が読めても話せない 勉強法を見直すきっかけになった

戸田 瑞姫

そこにはいろんな意見や思いが入っていて、それら異なるものを組み合わせてイノベーションにつなげるのがチームワーク。一方のグループワークはトップの指示で動くだけなので、改善はできても創造はできない。日本人は議論ができないという先ほどの話と関係するのですが、多様性のなからもの「ことを生み出すことが日本人は苦手。それを身につけるには若いうちに、その場に飛び込むこと―それは海外に出ることです。」

古川 留学の際に、必ずやり遂げないといけない任務を持たせるといいと思いますね。うちの場合はカンボジアの駐在員に大學生をどんどん起用しました。現地の言葉もままならない若い人に、各国のNGOとの窓口から業者との値段交渉まで、責任者

という肩書きを持たせてやらせます。そうすると、ものすごく成長するんですよ。

金田 それはいい取り組みですね。まさにスタンフォード大のリーダーシップ教育と同じ方法論です。

古川 我々には地雷被害者の生活をよくするというのが明確な目的があります。それが英語を勉強する動機になるし、任された責任も感じて活動します。駐在生活を通じて成長した学生は、帰国後、就職でも結果を出していますね。

結局はよき日本人として 国際社会で働けるかどうか

司会 実は、僕も間もなく交換留学に出かけます。オーストラリアで期間は4か月。おもな目的はメディアリテラシーの学習です。日本で報道されていることが外国ではどう扱われているのか。日本のメディアと海外のメディアとの視点の違いを探りたいと思います。

金田 客観的に日本をみようとする姿勢は大事だね。日本だけの情報だと一面的なことしかわからない。

司会 日本の一方的な見方ではなく、外国の視点を学んで、視野を広げてきたいと思っています。

金田 難波君は今、3年生だね。だったら1日最低150分は机に向かって勉強する習慣を身につけて欲しいね。行ってからでは遅いよ。プロ野球でキャンプがないと開幕を迎えられないのと同じ。そこで出発前に何を勉強するか、英語はもちろん歴史と国語だね。今、盛んに報道されている領土問題にしても、海外に行けば必ず意見を求められるし、答えられなければ呆れられるよ。外国の歴史も学べば、見方はもっと多様になる。

古川 歴史は重要ですね。僕の仕事には平和という大きなテーマがあるわけですが、戦争を防ぐためには歴史を学ばなければなりません。それと、留学自体が平和維持にとって意味があります。自分が行った国、人とのつながりができた国と争いたいとは誰も思わない。その観点からも日本人はどんな外へ出ていくべきです。

金田 あとは日本人という意識を強く持つてほしい。結局のところ、よき日本人として国際的に働けるようになることが、これからの時代にとっても大事です。僕は「よき日本人」国際人だと思っています。



今、見直したい 留学の価値

司会 最後は僕に対するアドバイスをいただくことになり、恐縮です。マナリさんは間もなく追大での生活を終えてインドへ帰られますね。帰国後の抱負をお聞かせください。

マナリ 日本で学んだことは数多くあります。日本特有の他者を尊重する態度や、社会がシステムチックで秩序を持っていることなど。鉄道などの交通ルールが、誰にとっても便利にできていることには感動しました。インドに帰って、日本で学んだことを伝えていきたいと思っています。

司会 僕も交換留学で、「感動した」といえるくらいの体験をしてほしいですね。みなさん、今日はありがとうございました。

取材・記事／心理学部 心理学科
2年生 松岡 駿弥
「司会」国際教養学部英語コミュニケーション学科
3年生 難波亮祐

司会者のヒトコト

異文化交流に大切な 日本人を意識すること

わくわく感とドキドキ感が入りまじる異文化交流。新しい土地に、新たな世界観。「現場で学べ」時給850円と日給850円が印象に残る。客観的な自分像そして、日本人らしさの確立こそ、国際社会への歩みだ。急速な国際化は、さらに日本人としての鋭い考察力を要求する。「チームプレイは得意、でもチームワークが苦手」。日本流のワークスタイルは、国際社会の現実味をいっしょに引き寄せ、これからの大きな問題提起になるにちがいない。



▶司会PROFILE

国際教養学部
英語コミュニケーション学科 3年生
学生企画広報スタッフ

Ryosuke Namba

難波 亮祐 さん

一年次に、航空チケットを片手に、友人と二週間の旅へ。マレーシア・シンガポールを観光。水上村やマングローブ林、さらには集落の市場などを訪れ、新しい生活習慣に触れる。この時に、語学力の壁を感じたことがきっかけとなり、留学を目指す。2013年夏よりオーストラリア交換留学に参加。本学学生企画広報スタッフ。本学広報誌「BRIDGE」の作成に携わる。

